

# 定期作況報告

(第6号 平成26年10月20日現在)  
地方独立行政法人北海道立総合研究機構  
農業研究本部 上川農業試験場

## 1. 気象概況

9月下旬：最高気温は平年より0.8℃高く、最低気温は平年より1.3℃低かった。降水量は平年より29.1mm少なく、平年対比27%であった。降水日数は平年より1日少なかった。日照時間は平年より13.4時間多く、平年対比128%であった。

10月上旬：最高気温は平年より3.6℃低く、最低気温も平年より2.6℃低かった。降水量は平年より6.9mm少なく、平年対比81%であった。降水日数は平年より1日少なかった。日照時間は平年より13.0時間少なく、平年対比74%であった。

10月中旬：最高気温は平年より1.9℃低く、最低気温も平年より1.1℃低かった。降水量は平年より13.2mm少なく、平年対比63%であった。降水日数は平年より2日少なかった。日照時間は平年より0.1時間多く、平年対比100%であった。

9月下旬から10月中旬までの気象は表1のとおりである。

表1 気象

調査項目	9月下旬			10月上旬			10月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温(℃)	20.2	19.4	0.8	14.2	17.8	▲ 3.6	13.4	15.3	▲ 1.9	15.9	17.5	▲ 1.6
最低気温(℃)	6.7	8.0	▲ 1.3	3.9	6.5	▲ 2.6	3.0	4.1	▲ 1.1	4.5	6.2	▲ 1.7
平均気温(℃)	12.9	13.4	▲ 0.5	8.8	11.7	▲ 2.9	8.2	9.3	▲ 1.1	10.0	11.5	▲ 1.5
降水量(mm)	10.5	39.6	▲ 29.1	28.5	35.4	▲ 6.9	22.5	35.7	▲ 13.2	61.5	110.7	▲ 49.2
降水日数(日)	3	4	▲ 1	4	5	▲ 1	4	6	▲ 2	11	15	▲ 4
日照時間(hr)	62.0	48.6	13.4	36.5	49.5	▲ 13.0	43.0	42.9	0.1	141.5	141.0	0.5

注1) 比布アメダス観測値。

2) 平年は比布アメダス前10カ年の平均値。

3) ▲印は平年に比べて減を示す。

## 1) 水 稲 : 良

### 5月20日現在作況 : 並

事由 : 播種は平年より1~2日遅い4月15日に行った。育苗期間中は、平年より高温多照で、出芽揃も良好で、苗の生育は進んだ。移植は平年より3日早い5月16日に行った。移植時の草丈は平年に比べ「きらら397」が1.1cm高く「ななつぼし」が0.6cm高く、「ゆめぴりか」が1.0cm低かった。主稈葉数および茎数はいずれも平年並で、第1葉鞘高は平年より0.8cm低く、地上部乾物重は平年に比べ「きらら397」と「ななつぼし」でそれぞれ0.29、0.23g重く、「ゆめぴりか」で1.11g軽かった。以上のように移植時の苗素質は平年並みであった。移植後2日間は極低温に経過し、植痛みがみられた。これらのことから、目下の作況は「並」である。

### 6月20日現在作況 : やや不良

事由 : 移植直後に低温による植痛みがあったが、5月末から6月第1週まで好天が続き、順調に回復した。しかし、6月第2週以降は降雨が続き、日照も少なかったことから、主稈葉数は平年に比べ0.5~0.6枚多いものの、草丈は「きらら397」「ゆめぴりか」でそれぞれ1.9、1.2cm高く、「ななつぼし」で2.4cm低く総じて平年並みで、 $m^2$ あたりの茎数は10~37%少なかった。生育は進んでいるものの、生育量が不足していることから、目下の作況は「やや不良」である。

### 7月20日現在作況 : 並

事由 : 6月下旬以降高温多照に推移したため、生育は進んだ。すなわち、幼穂形成期は「ななつぼし」「きらら397」で2日遅れた一方、「ゆめぴりか」で2日早く、平均で平年並みであったが、その後の止葉期は平年より1~3日早くなった。止葉葉数は平年より0.5~0.7枚多く、草丈は平年より2.1~4.5cm高かった。 $m^2$ あたりの茎数は「ななつぼし」「ゆめぴりか」でそれぞれ6、9%多い一方、「きらら397」で5%少なかった。生育は2日程度早く、茎数も平年並みに確保されており、目下の作況は「並」である。

### 8月20日現在作況 : 並

事由 : 出穂期は平年より1~2日早かったが、穂揃い日数は2~4日長かった。稈長は2.0~6.6cm長いが、穂長は0.3~1.0cm短かった。 $m^2$ あたり穂数は「きらら397」で8%少なかったが、「ななつぼし」「ゆめぴりか」でそれぞれ平年より6、7%多かった。 $m^2$ あたり穂数は品種の平均でわずかに多い傾向があるが、穂長がやや短ことから、目下の作況は「並」である。

### 9月20日現在作況 : やや良

事由 : 8月下旬および9月中旬の気温がやや低く経過したため、登熟が緩慢となり、成熟期は「ななつぼし」「ゆめぴりか」でそれぞれ9および4日遅く、登熟日数は平年よりそれぞれ10および6日長かった。「きらら397」は9月20日現在、成熟期に達していない。一穂粒数は平年より12~24%それぞれ多く、 $m^2$ あたり粒数 ( $m^2$ 当たり穂数×一穂粒数)は、 $m^2$ あたり穂数が多かった「ななつぼし」「ゆめぴりか」でそれぞれ平年より19および24%多く、 $m^2$ あたり穂数が少なかった「きらら397」においても15%多かった。稔実歩合は平年より0.3~1.6ポイント高かった。成熟期は遅れたものの稔実粒数が平年より多く確保されていることから、目下の作況は「やや良」である。

10月20日現在作況：良

事由：精玄米千粒重は平年比101～103%で、平年並からやや重かった。精玄米重は「ななつぼし」が735kg/10a、「きらら397」が711kg/10a、「ゆめぴりか」が671kg/10aとそれぞれ平年比111、111、105%で、3品種の平年比の平均は109%だった。ただし、登熟歩合が平年より低く、玄米品質は青米や充実不足粒がやや多かった。目下の作況は「良」である。

表2 9月20日の水稻の生育

項目	品種名 /年次	ななつぼし			きらら397			ゆめぴりか			
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
生育期節	播種期 (月日)	4.15	4.14	1	4.15	4.14	1	4.15	4.14	1	
	移植期 (月日)	5.16	5.19	△ 3	5.16	5.19	△ 3	5.16	5.19	△ 3	
	幼穂形成期 (月日)	6.24	6.22	2	6.26	6.24	2	6.22	6.24	△ 2	
	止葉期 (月日)	7.07	7.08	△ 1	7.09	7.11	△ 2	7.06	7.09	△ 3	
	出穂期 (月日)	7.19	7.20	△ 1	7.21	7.22	△ 1	7.18	7.20	△ 2	
	成熟期 (月日)	9.16	9.07	9	9.22	9.10	12	9.10	9.06	4	
	穂揃日数 (日)	11	7	4	9	7	2	10	8	2	
	登熟日数 (日)	59	49	10	63	50	13	54	48	6	
生育日数 (日)	154	147	7	160	149	11	148	145	3		
移植時	草丈 (cm)	13.8	13.2	0.6	13.6	12.5	1.1	12.5	13.5	▲ 1.0	
	葉数 (枚)	4.2	4.0	0.2	4.4	4.1	0.3	4.5	4.3	0.2	
	茎数 (本)	1.8	1.7	0.1	2.1	1.9	0.2	2.2	2.0	0.2	
	第1葉鞘高 (cm)	1.8	2.6	▲ 0.8	1.8	2.6	▲ 0.8	1.7	2.5	▲ 0.8	
	地上部乾物重 (g/100本)	4.46	4.23	0.23	4.36	4.07	0.29	3.67	4.78	▲ 1.11	
本田生育	葉数 (枚)	6月20日	8.9	8.3	0.6	9.2	8.7	0.5	9.2	8.6	0.6
		7月20日	11.0	10.3	0.7	11.8	11.1	0.7	11.2	10.7	0.5
		止葉葉数	11.0	10.3	0.7	11.8	11.1	0.7	11.2	10.7	0.5
	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	6月20日	504	624	▲ 120	465	743	▲ 278	617	683	▲ 66
		7月20日	786	742	44	777	814	▲ 37	885	813	72
	草丈 (cm)	6月20日	38.5	40.9	▲ 2.4	36.7	34.8	1.9	39.1	37.9	1.2
7月20日		87.6	83.1	4.5	76.7	74.6	2.1	84.3	79.9	4.4	
成熟期	稈長 (cm)	73.9	67.3	6.6	66.3	61.8	4.5	67.1	65.1	2.0	
	穂長 (cm)	16.0	16.9	▲ 0.9	16.4	16.7	▲ 0.3	15.8	16.8	▲ 1.0	
	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	723	680	43	685	744	▲ 59	795	746	49	
収量構成要素	一穂粒数 (粒)	55.6	49.6	6.0	52.1	42.0	10.1	49.5	42.7	6.8	
	m <sup>2</sup> あたり粒数 (×千)	40.2	33.8	6.4	35.7	31.1	4.6	39.4	31.7	7.7	
	稔実歩合 (%)	97.1	95.6	1.5	96.1	94.5	1.6	95.3	95.0	0.3	
	m <sup>2</sup> あたり稔実粒数 (×千)	39.0	32.3	6.7	34.3	29.4	4.9	37.5	30.1	7.4	
	同上比 (%)	121	100	21	117	100	17	125	100	25	
	登熟歩合 (%)	82.6	89.6	▲ 7.0	82.2	86.0	▲ 3.8	73.0	86.2	▲ 13.2	
	粒摺歩合 (%)	77.8	81.9	▲ 4.1	77.1	81.4	▲ 4.3	75.7	79.1	▲ 3.4	
	屑米歩合 (%)	4.4	1.6	2.8	3.3	1.8	1.5	5.8	3.0	2.8	
収量	精玄米千粒重 (g)	22.7	22.5	0.2	23.9	23.3	0.6	23.2	23.0	0.2	
	藁重 (kg/10a)	717	633	84	774	596	178	671	622	49	
	精粒重 (kg/10a)	945	807	138	922	789	133	887	812	75	
	精玄米重 (kg/10a)	735	661	74	711	642	69	671	641	30	
	収量平年比 (%)	111	100	11	111	100	11	105	100	5	
検査等級 (等)		1下	-		1下	-		1下	-		

注 1) 「きらら397」「ななつぼし」の平年値は前7カ年中、平成20年(最豊年)、平成21年(最凶年)を除く5カ年の平均。「ゆめぴりか」の平年値は前6カ年中、平成21年(最凶年)を除く5カ年の平均。

2) △は平年に比べ「早」、▲は平年に比べ「減」を示す。

3) 苗代耕種概要 育苗様式：成苗ポット苗

施肥量：成分量でm<sup>2</sup>あたり、床土 N 3.0g, P 7.2g, K 3.0g、置床 N 27.0g, P 34.0g, K 18.0g

4) 本田耕種概要 栽植密度：25.3株/m<sup>2</sup> (33.0cm×12.0cm)、3本植

施肥量：成分量で10aあたり、N 8.0kg, P 9.7kg, 6.9kg, 堆肥1,000kg

5) 精玄米千粒重・精玄米重：網目1.90mm以上、水分15%換算

2) 秋まき小麦： やや不良

平成26年

9月20日現在

平年より1日早い9月14日に播種を行った。

10月20日現在

播種期は平年より1日早かったが、出芽期は平年並となった。葉数は平年並であるが、出芽以降低温で経過したことから、草丈と茎数は平年を下回っている。

したがって、目下の作況はやや不良である。

表3. 9月20日の秋まき小麦の生育

品 種 名		きたほなみ		
項 目 \ 年次		本 年	平 年	比 較
播種期 (月.日)		9.14	9.15	△ 1
出芽期 (月.日)		9.24	9.24	0
出穂期 (月.日)			6.06	
成熟期 (月.日)			7.18	
越冬茎歩合 (%)			128.2	
雪腐病発病度			12.1	
葉数(枚)	平26年10月20日	4.3	4.4	▲ 0.1
草丈 (cm)	平26年10月20日	15.7	18.5	▲ 2.8
	平27年 5月20日		38.4	
	平27年 6月20日		86.5	
茎数 (本/m <sup>2</sup> )	平26年10月20日	633	723	▲ 90
	平27年 5月20日		1366	
	平27年 6月20日		685	
成 熟 期	稈長 (cm)		78	
	穂長 (cm)		8.6	
	穂数(本/m <sup>2</sup> )		633	
子実重 (kg/10a)			646	
同上平年比 (%)			100	
リットル重 (g)			804	
千粒重 (g)			39.2	
検査等級 (等)				-

注 1) 平年値は、前7か年中、平成20年、22年（収穫年度）を除く5か年の平均値。

2) △は平年より早、▲は平年より減を示す。

3) 大 豆： 良

6月20日現在：良

事由：播種期は平年より7日早い5月15日であった。播種直後に十分な降水があったため、出芽揃いに大きな問題はなかったが、出芽期の平年との差は播種直後の著しい低温により3日に縮まった。出芽期前後は著しい高温・少雨に経過し、出芽直後の生育は緩慢であったが、6月9日以降の連続した降雨と少照により徒長気味に伸長が進み、主茎長、主茎節数とも平年を上回っている。

したがって、目下の作況は「良」である。

7月20日現在：平年並

事由：高温・多照により生育が早まり、開花期は平年より7日早い7月4日で、作況に「ユキホマレ」を供試した過去14年間で最も早かった。生育の早まりと少雨により茎長は抑制され、主茎長は平年より12.6cm短い。主茎節数は平年よりわずかに少なく、分枝数はやや少ない。

したがって、目下の作況は「平年並」である。

8月20日現在：やや不良

事由：7月第5半旬までの高温、干ばつにより主茎の伸長停止が早まり、主茎長は平年より18.3cm短い。分枝は平年より少なく、着莢数も平年より少ない。

したがって、目下の作況は「やや不良」である。

9月20日現在：やや良

事由：成熟期は平年より3日早かった。成熟期における主茎長は平年より15.6cm短く、倒伏は見られなかった。主茎節数はほぼ平年並で、分枝数は平年より0.6本少なかったが、着莢数は平年より多かった。

したがって、目下の作況は「やや良」である。

10月20日現在：良

事由：子実重は平年比113%と多収であったが、百粒重は平年より0.7g軽かった。屑粒率は平年より低かった。

したがって、目下の作況は「良」である。

表4 大豆の生育および収量

品 種 名		ユキホマレ		
項 目 \ 年次		本 年	平 年	比 較
播種期	(月.日)	5.15	5.22	△ 7
出芽期	(月.日)	5.31	6.03	△ 3
開花期	(月.日)	7.04	7.11	△ 7
成熟期	(月.日)	9.18	9.21	△ 3
主茎長 (cm)	6月20日	18.4	13.3	5.1
	7月20日	51.1	63.7	▲ 12.6
	8月20日	51.5	69.8	▲ 18.3
	成熟期	54.5	70.1	▲ 15.6
主茎 節数 (節)	6月20日	5.4	4.6	0.8
	7月20日	10.1	10.4	▲ 0.3
	8月20日	10.4	10.5	▲ 0.1
	成熟期	10.4	10.5	▲ 0.1
分枝数 (本/株)	7月20日	6.5	7.1	▲ 0.6
	8月20日	4.2	7.2	▲ 3.0
	成熟期	5.1	5.7	▲ 0.6
着莢数 (個/株)	8月20日	75	83	▲ 8
	成熟期	82	73	9
子実重	(kg/10a)	476	421	55
同上	平年比 (%)	113	100	13
百粒重	(g)	36.9	37.6	▲ 0.7
屑粒率	(%)	0.5	3.6	▲ 3.1
検査等級	(等)		3上	-

注 1) 平年値は、前7か年中、平成20年、22年を除く5か年の平均値。  
 2) △は平年より早を、▲は平年より減を示す。

4) 小 豆： 良

6月20日現在：良

事由：播種期は平年より2日早い5月22日であった。出芽期は6月5日で平年より4日早かったが、播種後の高温と少雨により出芽は不ぞろいであった。6月上旬に著しい高温、乾燥となったが、6月中旬には連続した降水があったため、主茎長、本葉数とも平年を上回っている。

したがって、目下の作況は「良」である。

7月20日現在：良

事由：高温、少雨に経過したが、要所でまとまった降水があったため、分枝数はやや少ないものの、主茎長、本葉数とも平年を上回っている。

したがって、目下の作況は「良」である。

8月20日現在：やや不良

事由：開花期は平年並であった。主茎長はほぼ平年並で、本葉数は平年よりやや少ない。分枝数、着莢数も平年よりやや少ない。

したがって、目下の作況は「やや不良」である。

9月20日現在：やや良

事由：成熟期は平年より1日早かった。主茎長は平年より7.1cm短かった。主茎節数、分枝数ともほぼ平年並であったが、着莢数は平年より多かった。

したがって、目下の作況は「やや良」である。

10月20日現在：良

事由：子実重は平年比114%と多収であったが、百粒重は平年より0.6g軽かった。屑粒率は平年より低かった。

したがって、目下の作況は「良」である。

表5 小豆の生育および収量

品 種 名		エリモシヨウズ		
項 目 \ 年次		本 年	平 年	比 較
播種期	(月.日)	5.22	5.24	△ 2
出芽期	(月.日)	6.5	6.9	△ 4
開花期	(月.日)	7.21	7.21	0
成熟期	(月.日)	9.2	9.3	△ 1
主茎長 (cm)	6月20日	6.5	4.8	1.7
	7月20日	44.2	36.5	7.7
	8月20日	70.2	68.7	1.5
	成熟期	66.9	74.0	▲ 7.1
本葉数 (枚)	6月20日	2.3	1.3	1.0
	7月20日	11.4	9.7	1.7
	8月20日	12.5	13.3	▲ 0.8
主茎節数 (節)	成熟期	15.2	15.2	0.0
分枝数 (本/株)	7月20日	5.7	6.1	▲ 0.4
	8月20日	5.3	5.7	▲ 0.4
	成熟期	5.3	5.2	0.1
着莢数 (個/株)	8月20日	51.3	56.2	▲ 4.9
	成熟期	69.4	56.0	13.4
子実重	(kg/10a)	352	308	44
同上	平年比 (%)	114	100	14
百粒重	(g)	11.8	12.4	▲ 0.6
屑粒率	(%)	1.2	3.4	▲ 2.2
検査等級	(等)		3下	-

注 1) 平年値は、前7か年中、平成19年、平成20年を除く5か年の平均値。  
 2) △は平年より早を、▲は平年より減を示す。